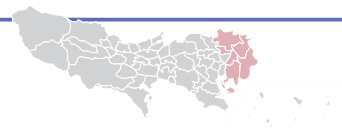


東部地区支部

墨田区 江東区 荒川区 足立区 葛飾区 江戸川区



実績

- (1) 地区支部研修
 - 6月11日 「食べる」を支援する～現場で実践できる嚥下ケア～ 受講者数31名 満足度：4.6
 - 7月 9日 終末期を支えるACPの実践～ ACPの基礎と実践～ 受講者数46名 満足度：4.7
 - 9月16日 想いを汲み取る認知症看護～認知症の基礎と現場での関わり方～ 受講者数32名 満足度：4.2
 - 10月14日 おむつの中のスキントラブル～その原因と対処法～ 受講者数25名 満足度：4.9
- (2) 第31回看護研究実践報告会 11月12日 発表数：5演題 参加者24名
- (3) まちの保健室 会場：東日暮里ふれあい館
11月12日 参加者36名 令和5年2月18日 参加者11名

成果

地区支部研修は、オンライン研修の開催に着手。より多くの方に学びの機会を提供する視点で開催したが、受講者数は目標値には至らなかった。しかし、参加者からはオンライン研修に好意的な意見が寄せられていた。

看護研究実践報告会では、自身の発表だけでなく視点の異なる発表を聞き、少人数でディスカッションできたことが有益であったとの回答が多く寄せられ、73%が来年度も参加したいと回答した。開催方法は91%が対面での開催を希望していた。

「まちの保健室」はこれまでショッピングセンターで不定期に実施してきたが、今年度は地域包括支援センターと協働し開催できた。広報誌への活動紹介など、東京都看護協会の活動として認知してもらえる機会となった。

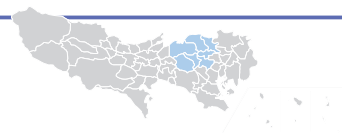
広報としては、ホームページを活用しこれまでの地区支部ニュースと同等の内容を掲載し、情報を発信することができた。

今後は、地区支部研修の開催方法を内容に応じて検討する。また、4回の研修を初期編・応用編で構成し幅広いニーズに応じた研修とする。看護研究実践報告会は参加人数や発表演題数の課題があり、より多くの方に当協会の良さを知っていただけるよう、引き続き広報を強化する。「まちの保健室」は引き続き地域包括支援センターと協働、地域の健康増進・疾病予防に取り組む。

広報は地区支部の活動や地域の医療機関の取り組みの紹介を通して、東京都看護協会の活動や魅力を発信していく。

西部地区支部

新宿区 中野区 杉並区 豊島区 北区 板橋区 練馬区



実績

- (1) 地区支部研修
 - フィジカル・アセスメント 講師：山内 豊明 氏（放送大学大学院文化科学研究科生活健康科学教授）
 - 6月 4日 呼吸 受講者16名 10月24日 中枢神経 受講者19名
 - 9月17日 循環器 受講者16名 11月19日 急変時 受講者24名
- (2) 地域での看看連携の推進
地域包括ケア委員会（区西部）と役員会で、コロナ禍における退院調整等での困難事例についてフリーディスカッションを行い、地域包括ケア委員会での活動方針明確化に取り組んだ。
- (3) 東京マラソン2023 令和5年3月5日 医療班へ看護師派遣

成果

コロナ禍での活動は若干規模が縮小した状況ではあったが、「まちの保健室」を除いて計画通りに実施できた。地区支部活動の目玉である地区支部研修は毎回参加者の評価も高い。今年度は1回Zoom研修を行ったが、参加者の反応を確認するのが難しいと感じた。

地域住民への保健活動を通じ、住民の健康増進・感染防止対策等の啓発を図ることを目的とした「まちの保健室」がコロナ禍で約3年近く実施できていない。令和5年5月8日でコロナが5類に変更されることもあり、令和5年度以降は地区支部の定款事業である地域住民への活動を計画・実施・評価を行う。

組織強化の取組として研修にて協会の紹介、勧誘を実施した。会員拡大は地区支部としても重要案件であり、役員の所属施設も含め活動していきたい。

南部地区支部

品川区 目黒区 大田区 世田谷区 渋谷区



実績

- (1) 地区支部研修
 - 7月29日 メンタルサポート ～リーダーナースを支えよう～ 受講者21名
 - 9月24日 心電図の基礎 受講者34名
 - 10月14日 看護に活かす心電図 受講者28名
 - 11月11日 高齢者看護 ～高齢者の意思決定支援を学ぼう～ 受講者数22名
- (2) まちの保健室
12月 3日 渋谷区中幡小学校放課後クラブ 参加者27名 12月17日 目黒区向原小学校学内学童保育クラブ 参加者12名
- (3) 諸会議への参加、委員会との連携
南部地区地域包括ケア委員会と連携し、南部地区地域包括ケア委員による定例会議を開催し、地域の現状把握と情報交換を実施した。また、高齢社会に増える慢性心不全患者の再入院予防のための患者支援、地域で支えるための活動計画を立案し実施した。

成果

地区支部研修は、オンデマンド開催を検討したが4回とも集合開催となった。広報活動、「まちの保健室」活動については、計画通り実施できた。

地域包括ケア委員会活動は、上半期は各地域の活動や情報交換が主体となった活動であったが、下半期は慢性心不全患者を地域で支えるための活動に取り組み始めることができた。今後は病院代表者による組織であるため、地域の保健師・訪問看護師・ケアマネジャーなどの医療従事者との連携調整を拡大していくための対策が望まれる。

会員拡大の推進では、地区支部研修開始前に、入会説明のご案内を実施した（4回実施）。また、南部地区役員及び委員を通じて会員拡大PRを実施した。引き続き東京都看護協会会員を増やすための活動について検討していく必要がある。

中部地区支部

千代田区 中央区 港区 文京区 台東区

大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村



実績

- 地区支部研修
6月25日 心電図ベーシックコース 受講者数35名
7月23日 家族支援看護 受講者数14名
9月 3日 災害支援(トリアージ研修) 受講者数33名
10月15日 心電図ベーシックコース 受講者数27名
11月 5日 認知症看護 受講者数16名
- まちの保健室 令和5年2月4日 会場：飯田橋ラムラ 参加者51名

成果

地区支部研修は、コロナ禍ではあったが感染対策を行い、すべて対面で実施した。7月からの急速な感染拡大により、参加者が少なく募集人員には満たなかったことは残念である。参加した方からのアンケートでは、ほとんどの項目で90%以上の方が「良かった」と評価しており、実施した意義はあった。しかし、支部研修を知らなかった方もいることがわかり、今後の周知の方法について検討が必要である。

令和5年度は、地区支部研修は、感染状況を見ながら役員も自院での周知を行うことや、Webサイトでの広報活動などに力を入れて広く周知することにより、多くの研修参加者を募っていく。「まちの保健室」については、1回実施したが、感染状況を見ながら回数を増やし、計画的に実施していくこととする。

会員獲得活動は、地区支部研修で、支部長が東京都看護協会の事業説明等を実施した。今後も東京都看護協会の活動に協力し地区支部での会員獲得活動を行っていく。地区支部役員も会員獲得に向けて自院でのアピール活動をしていく。

多摩北地区支部

立川市 青梅市 昭島市 小平市 東村山市 国分寺市 国立市 福生市 東大和市 清瀬市

東久留米市 武蔵村山市 羽村市 あきる野市 西東京市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町



実績

- 地区支部研修
6月 4日 人材育成：中途採用者を含むスタッフ育成について 受講者数12名
7月 2日 メンタルヘルス：自分らしく看護するために看護師のメンタルヘルスケアを学ぶ 受講者数19名
10月 1日 防災：地域・自施設で実践できる防災・減災の基礎を学ぶ 受講者数15名
11月 5日 高齢者看護Ⅰ：人生最終段階にある高齢者について理解する 受講者数11名
令和5年1月7日 高齢者看護Ⅱ：看取りの看護 意思決定支援の大切さを学ぶ 受講者数15名
令和5年2月4日 新人教育：新卒看護師の教育的支援について理解する 受講者数15名
- まちの保健室
開催日：7月16日 参加者26名 11月19日 参加者14名
会 場：東村山市立中央公民館
- 関係会議出席、協会活動への参加協力
地域医療構想調整会議(2回)、在宅医療ワーキング会議、二次保健医療圏地域災害医療連携会議に参加した。
- 東京マラソン2023 令和5年3月5日 医療班へ看護師派遣

成果

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により地区支部活動が実施できなかったが、令和4年度はウィズコロナ対応で感染対策等に留意し、研修(対面)、「まちの保健室」開催が問題なく実施できた。地区支部研修は継続して会員のニーズや社会状況に応じた研修を企画する。

地域の保健・福祉に関する事業は、令和4年度は開催されなかった。次年度活動協力依頼があれば積極的に参加していく。また、地域包括ケア委員会と協力し病院と地域看護職の連携を推進する。

多摩南地区支部

八王子市 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 小金井市 日野市 狛江市 多摩市 稲城市



実績

- 地区支部研修
7月23日 心電図基礎編 受講者数32名
10月15日 心電図応用編(オンライン) 受講者数51名
- まちの保健室 令和5年2月13日 会場：しばさき彩ステーション 参加者7名
- 地域での看看連携、地域包括ケア委員会等との連携
多摩南地区地域貢献活動の検討 7月1日 情報交換会、8月4日 フィールドワーク(訪問)
- 東京マラソン2023 令和5年3月5日 医療班へ看護師派遣

成果

調布市福祉健康者高齢支援室訪問を通して、「まちの保健室」再開につながった。また、支部長が地域包括ケア委員会に参加することで、地域連携の実態の把握、及び課題が少しずつ見えてきた。

今後、「まちの保健室」は、開催回数を増やす方策をすすめ、東京都看護協会の認知度を高めたい。テーマは多摩南地区、地域における「人生会議(ACP)」「2人の主治医を持つ(病院のかかりかた)」について、啓発活動を行っていく。

研修開催は、令和5年度はすべての研修をオンデマンド開催とする。毎年好評の心電図研修に加え、「心不全患者の看護」をとりあげ、地域の循環器専門訪問診療クリニック医師、ならびに慢性心不全看護認定看護師を講師に依頼する。

会員数拡大については、「まちの保健室」活動、研修等を通して、東京都看護協会入会をすすめていく。特に研修の際に入会の案内の時間を設ける。